リーディングDXスクール事業 【実践事例】

幸手市立さかえ小学校(埼玉県)【指定校】

【取組内容】 道徳教育における個別の学びと協働的な学びとを結びつけるICT活用【4年 特別の教科道徳】

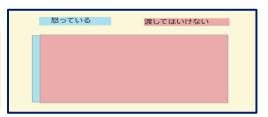
○教材「かなちゃんへの手紙」(出典:彩の国のどうとく「みんななかよし」)埼玉県教育委員会 →教材に出てくる「わたし」の心の変化をタブレット端末を活用して自己内対話を行ったり 【個別】クラス全体で考えを共有し、互いの考えをとおして自己を見つめたりする【協働】 学習でICTを活用。



遊ぶ約束をしていたにも関わらず、急に遊べなくなってしまった「かな」に対して、 悪口を書いた手紙を「かな」の机にこっそり入れようとしていた。その時の「私」 の気持ちをタブレットに入力する。

※教師は児童が【怒っている】【手紙を渡してはいけない】のどちらの気持ちなのかを入力するシートを用意 【下画像】

児童一人一人が考えた「私」が手紙を破った理由について考えさせ、端末に入力。その後、グループでお互いの考えを交流しながら**『相手への思いやりのある行動』について考えさせる**。【下画像】





【実践から見えてきたこと】

道徳科では、「考え、議論する」ことが肝要である。対話を通して、ねらいとする価値について、他者の考えを参考にしながら自己の考えを深めていく。 他者参照しながら自己の生き方を見つめることがICTで容易になるが、自らの考えを放棄するということに繋がらないよう、留意して指導していく必要がある。